

「高度医療・人材育成拠点」基本構想について

令和 4 年 11 月 健康福祉局

1 基本構想の位置付け

令和4年3月に広島県地域保健対策協議会から提言のあった「高度医療・人材育成拠点ビジョン」を踏まえて、拠点(新病院)に必要な医療機能や広島都市圏における医療機能の分化・連携・再編の方向性等を示したもの。(拠点ビジョン推進会議等の意見を聴いて県が策定)

2 現状・課題

- がんと心疾患の死亡者数は増加傾向
- 無医地区数は、全国ワースト2位
- 若手医師が減少
- 救急搬送困難事案の割合が高い
- 急性期病床は過剰、回復期病床は不足

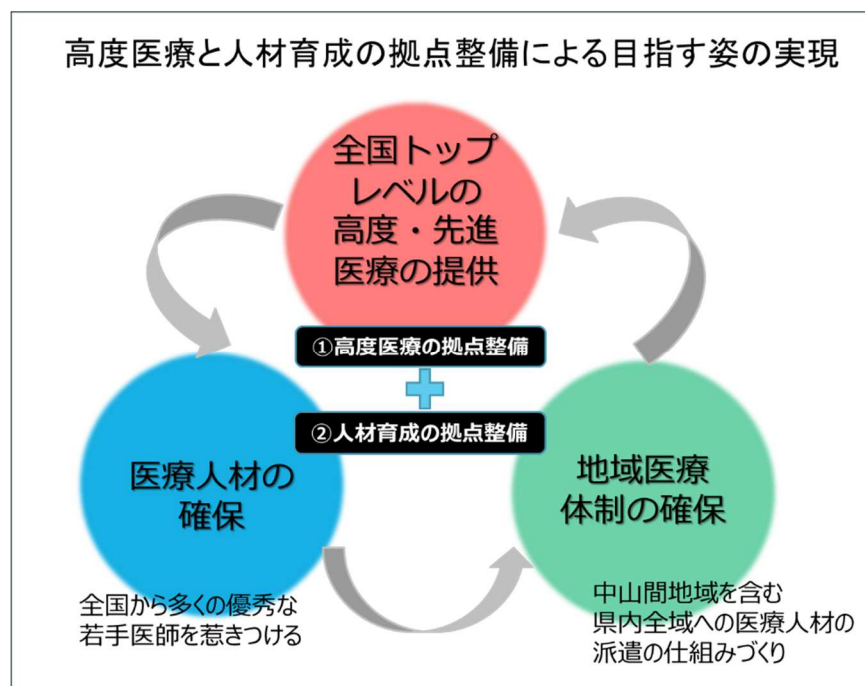


・大都市圏を中心とした若手医師の流出により、県内医師が不足し、地域に必要な医師が配置されていない。

・広島都市圏において、医療資源が分散しているため、非効率な体制となっており、救急医療など県民の医療ニーズに十分に答えられていない。

3 目指す姿

- (1) 医療資源や症例の集積による高度医療の拠点整備と医療機能の分化・連携により、全国トップレベルの高い水準の医療と患者の状態に応じた切れ目のない医療を提供する。
- (2) 大学との連携による人材育成の拠点整備により、医療人材を確保し、県内全域の地域医療提供体制を確保する。



4 医療機関の再編計画

別紙参照

5 高度医療拠点(新病院)の概要

整備予定地	広島市東区二葉の里三丁目
コンセプト	全ての県民が、質の高い医療を安心して受けることができる、地域医療連携の中核となる病院を目指すとともに、人材を惹きつけ、医師や看護師等の医療スタッフにとっても働きやすく、働きがいのある病院を目指す。
病床規模	1,000床程度
主な医療機能	<ul style="list-style-type: none"> ○ 三次救急及び二次輪番病院のバックアップ “断らない救急” ○ 小児救命救急センター(ER機能併設)、成育医療センター ○ がん治療センター、脳卒中センター、心臓病センター、外傷センター ○ 新興・再興感染症拡大時に対応可能な体制 ○ 基幹災害拠点病院として人材育成・派遣など災害医療体制の強化に貢献 ○ ICT技術を活用したスマートホスピタル ほか
事業費	新病院の持続的な運営が可能となるよう、新病院の整備(診療科編成、医療機器配置等)に必要なコストについて、他病院との再編や建築資材・人件費などの原価高騰、金利の動向等も踏まえて検討
開院予定	2030年度(工期短縮について検討)

6 人材育成拠点の概要

- ✓ 新病院の多彩な症例を活かして県外から若手医師等を惹きつける。
- ✓ 総合診療医を育成する。
- ✓ 地域のニーズを把握して効率的に医師等を派遣する。

【大学・新病院・広島県の連携による人材派遣の仕組み】



7 新病院の運営形態

「高度医療・人材育成拠点の運営形態のあり方検討会」による提言を踏まえ、新病院にふさわしい運営形態について、引き続き検討を進める。

〔あり方検討会の提言〕

新病院の運営形態は、次の理由により、一般地方独立行政法人(非公務員型)とすることが望ましい。

- ・政策医療の実施を担保することができること。
- ・予算執行、職員採用、給与制度など柔軟な対応が可能であること。
- ・持続可能な病院経営のための仕組み(評価委員会等)が法定されていること。

8 整備スケジュール

拠点ビジョン → **基本構想** → 基本計画 → 基本設計 → 実施設計 → 建設工事 → 開院
2022年3月 2022年11月 2023年 2023～2025年 2026～2030年 2030年

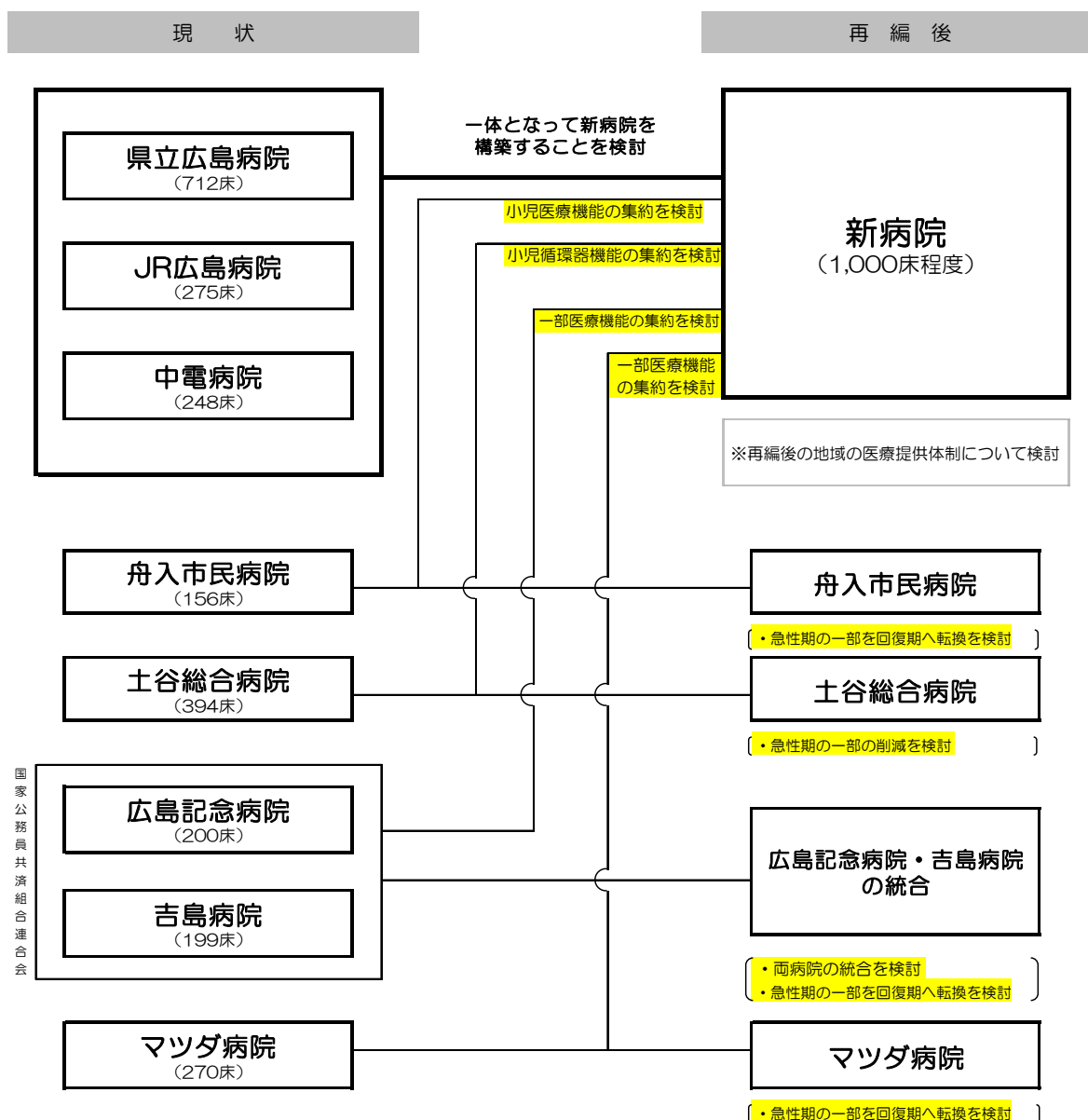
※ スケジュールは、現時点の想定

医療機関の再編計画

高度な医療資源が集中する広島都市圏において、適切な役割分担と連携による地域完結型医療を実現するため、医療機関を再編することについて、関係医療機関と検討を進める。

総務省の「公立病院経営強化ガイドライン」
 地域において中核的医療を行う基幹病院に急性期機能を集約して医師・看護師等を確保し、基幹病院以外の病院等は回復期機能・初期救急等を担うなど、双方の間の役割分担を明確化する。

医療機関の再編イメージ 【基本構想】



病床数：2021.7.1現在の許可病床数

※再編の影響が予想される地域の医療体制については、地域や有識者の意見を聴きながら対応を進める。